

Governance

社外取締役メッセージ



社外取締役
公認会計士
監査委員長

山田 辰己

社外の視点で組織の運営状況をモニタリングし、 企業価値最大化に向けた意思決定を監督していきます

株主価値増大のための経営方針の策定と 業務執行の監督

三菱ケミカルグループ(株)は、2021年4月にジョンマークがCEOに就任して8カ月という短期間で新たな経営方針を取りまとめました。この迅速な意思決定は、ジョンマークのリーダーシップとともに執行側が鋭意取り組んだ結果ですが、取締役会での活発な議論が活かされたものでもあると考えています。

また、2021年12月に導き出された新経営方針「Forging the future 未来を拓く」の5つの最重要ポイントは、どれも「企業価値最大化に向けた選択と集中」という取締役がめざす方向性が反映されたものと言えます。中でも、注力市場の選別基準の一つに「カーボンニュートラル」を取り入れることによって、これまでも当社が進めてきた社会課題を事業機会に活かしていくサステナビリティ経営の考え方がより具体化されています。

2022年4月から、当社は事業群とコーポレート機能をグローバルに、一元的に運営していく体制へと変わりました。この新体制によって意思決定のスピードアップやコスト削減など効率的な企業経営が期待されますが、それを実現するためには従業員一人ひとりが「One Company, One Team」という思想を理解し、コミュニケーションを通じて新組織を機能させていくことが重要です。そうした観点から、事業面では掲げている主要財務

目標の達成に向けたプロセスや投資判断の適切さおよびその進捗状況を、コーポレートの面からは職場の安全確保やコーポレートガバナンス、コンプライアンス、内部統制、人材育成などの組織運営についてしっかりとモニタリングし、ジョンマークを含む執行側がどのような視点でリスクテイクし、ポートフォリオを持続可能なものに変革していくのか、取締役会でしっかりと議論し、業務執行を監督していきたいと思っています。

社外の観点から意見を述べ、監査体制を強化

私は2022年4月から、当社グループの社外取締役では初となる監査委員長に就任しました。監査委員会の役割は、執行役などの職務執行の監査、監査報告書の作成、そして会計監査人の職務執行の評価です。これら任務を果たしていくためには、さまざまな情報を集め、多角的な視点で検討を重ねながら適時適切に物ごとを判断していく必要があります。これを支えるため、監査委員会事務局が3名から6名(2022年10月現在)に増員されたことは、情報収集体制の強化という点で心強く感じています。こうした新体制の中、社外の委員長として業界の慣習に捉われない外部の視点、また会計監査の専門家としての視点から意見を述べ、活発な議論を通じて監査委員会業務の透明性および公正性を確保していきたいと思っています。